

令和4年 7月 15日

患 者 さ ん へ

— 「パノラマ X 線写真を用いた下顎埋伏智歯抜歯後の下唇知覚異常の予測」
への参加ご協力のお願い（告知）—
記

課題名：パノラマ X 線写真を用いた下顎埋伏智歯抜歯後の下唇知覚異常の予測

実施責任者：所属 顎口腔外科学講座 職名 講師 氏名 中山敦史

研究概要：口腔外科で最も頻繁に行われる手術は下顎埋伏智歯抜歯術です。その術後合併症には下歯槽神経の損傷による下唇の知覚異常があるため、下顎智歯と下顎管の位置について術前の評価を行うことが重要となります。下顎智歯と下顎管の解剖学的位置関係を把握する際、パノラマ X 線画像が最も多く用いられていますが、立体的な評価をするには限界があります。一方、歯科用の CT(以下 CBCT)はパノラマ X 線画像に比べ3次元的な位置関係を正確に把握することが可能となりますが、全ての患者にCBCT 撮影することは困難です。このため、パノラマ X 線画像で下顎埋伏智歯の抜歯後の下唇知覚異常のリスクが予測できないかを検討します。パノラマ X 線画像で下顎智歯と下顎管の接触程度および重畳（重なり）サインの有無を評価し、CBCT 所見との関連を検討します。次に下唇知覚異常の発生率を明らかにし、下唇知覚異常が出現した症例のパノラマ X 線所見と CBCT 所見を比較し、下歯槽神経損傷のリスク因子を予測する上で有用なパノラマ X 線所見を検討します。

対象者：2014年1月から同年12月までの1年間に愛知学院大学歯学部附属病院口腔外科第一診療部を受診した患者で下顎埋伏智歯抜歯を希望し、パノラマ X 線画像にて下顎智歯と下顎管が接触していると判定された症例のうち、術前に歯科用 CT 撮影を行った患者 345 名の患者さん。

個人情報の保護：研究成果が学術目的のために学術雑誌などに公表されることがありますが、その場合にも個人情報保護に関する法律に基づき、個人情報の保護は厳重に守られ、第三者に個人の名前や住所、性別がわからないようにします。また、この研究で得られたデータが本研究の目的以外に使用されることはありません。

対象者となる方でこの研究での試料・情報使用に同意されない場合や、ご不明な点がございましたら、「連絡先」に申し出て下さい。

本研究は、愛知学院大学歯学部倫理委員会より承認を得て、告知を行っております。
(承認番号：650)

以上

連絡先：〒464-8651 愛知県名古屋市千種区末盛通 2-11
連絡先名称：愛知学院大学歯学部 顎口腔外科学講座
責任者名：中山敦史
Tel: 052-759-2111 (内線:5297)